

V. 団長所感

バングラデシュでは7月中旬から約2カ月間、今世紀最大ともいわれる洪水に見舞われた。水が引いた後、汚染された井戸水などを通じた下痢性疾病の蔓延が懸念されたため、10月2日から15日まで感染症予防のためのJDR 専門家チームが派遣されることになった。

今回の派遣を通じてバングラデシュの自然条件の過酷さ、さらに国民がこのような自然条件を受容しつつ、いかに辛抱強く生きているか、ということを感じた。

バングラデシュはガンジス河、ブラマプトラ河などの河川により形成されたデルタ地帯に位置しており、雨期・乾期双方において水の問題が集中的に現れる。水が過剰となる雨期においては、大量の降雨に加え、国内降水量の4倍もの水が上流河川よりバングラデシュ国内に流入する。これがバングラデシュで洪水が発生する基本的背景となっている。

他方、乾期には雨がほとんど降らないため、上流から流入する河水が農業にとって極めて重要となる。しかし、上流地域で灌漑に必要な取水量が急増したことによって、バングラデシュ国内に流入する河水量が減少。この結果、乾期における水不足問題が近年、深刻化した。88年以降、大規模な洪水が発生しなかったこともあり、洪水よりもむしろ乾期における南西部の水不足がより深刻な問題となっていた。

今回の専門家チームの派遣に合わせ、医薬品などの緊急援助物資の供与が決定されたため、これら援助物資の供与もチームの重要な任務となっていた。チームはグッカの南東約50キロのチャンドゥプール県マトラブ市を拠点として県内の7つの郡を巡回し、県および郡病院などに対する医薬品の供与、各病院における患者数の推移・治療状況の調査、病院付近の井戸水の汚染状況の調査、ヘルスワーカーに対する水質検査・浄水剤使用法についてのデモンストレーションを実施した。水質検査およびデモンストレーションの実施においては、バングラデシュ派遣中の青年海外協力隊員が6人、協力してくれた。

各病院での下痢患者数は、9月以降増加したものの峠は越したようであった。懸念されていた感染症の蔓延という事態には、至っていなかった。最近の政府および NGO による啓蒙活動の成果により、脱水状態に陥った際の経口輸液の使用が普及したこと、また、交通インフラの整備により病院へのアクセスが改善されたことなどから、病死者の数が激減した。しかし、10月末現在の病死者は1000人を超えており、それでもなお、国民は劣悪な環境のなかで生活していることがわかるだろう。

患者のほとんどは幼児であり、チームに参加した医療専門家によれば、栄養状態の悪さが病氣

に対する抵抗力を弱めているとのことであった。洪水時における罹病を抑えるためにも、平時において栄養不良の改善などを行っておく必要がある。

このような大規模な自然災害にも関わらず、暴動などの発生は皆無で、平時となんら変わらない治安が保たれていることには、驚いた。国民は洪水、サイクロンなどの災害を当然のものとして受け入れているかのようだった。

帰国後、在日バングラデシュ大使館の館員は、「洪水になればバングラデシュの子どもたちは、水壺を抱え、腰まで水に浸かっているが、顔には笑顔を浮かべている。これがバングラデシュの国民性、文化である」と述べていたのが、印象的だった。

添 付 資 料

1. **バングラデシュ政府への報告書**
2. **活動日誌・業務記録**
3. **被災状況資料 (Bangladeshu-Floods : OCHA Situation Report NO.9)**
4. **新聞報道等**

13 October 1998

JAPAN DISASTER RELIEF MEDICAL EXPERT TEAM
FOR
FLOOD IN BANGLADESH

ACTING AND RECOMMENDATION REPORT

1. Mission of Medical Experts

Japan Disaster Relief (JDR) Team was dispatched on 2 October 1998 to assist medical support after flood. The Team analyzed the outbreak of diarrhea diseases and sanitary situation at Chandpur District in Bangladesh.

2. Activity and Methods

Information of victims was collected beforehand from the Ministry of Health and Family Welfare, the ICDDR-B, Civil Surgeon Office in Chandpur. The Team visited seven Thana Health Complexes (THC) and ICDDR-B Matlab Center. The field survey of drinking water was conducted in co-operation with each THC concerned.

(1) Drug Delivery

The Japanese Government had donated essential drugs for diarrhea diseases such as ORS, IV fluids, and antibiotics. The Team delivered the drugs. (Drug list is attached.)

(2) Statistic Data Analysis

The data of patients with diarrhea since July were collected for analysis in each THC, the district hospital, and the ICDDR-B Matlab Center.

(3) Bacteriological Study

Stool specimens and water samples were collected for examination. (The bacteriological examination is to be conducted for further analysis after culture and identification.)

(4) Analysis of Drinking Water

Water sample was collected for bacteria contamination study.

(5) Demonstration of Safe Water

Water purifying technique was demonstrated at each THC.

3. Results

More detailed data of the analysis will be reported later through JICA Bangladesh Office. However, some findings and impressions are as follows;

(1) Patients with diarrhea in Chandpur District (since July) increased in number after flood (28.6 % increase). However the patient number has not increased so high as an epidemic outbreak. The case fatality ratio has remained less than 1 % of affected patients.

(2) 15 % of indoor patients complained of diarrhea. Moreover, one third of the hospitalized patients are suspected of infectious diseases, therefore, stronger measures are to be required.

(3) Each THC covers 100,000-400,000 population and it is expected to play as a secondary hospital. However, twenty-three essential drugs are available, the shortage of some kinds of drugs may occur. For laboratory examination, only a light microscopy is equipped in each THC. X-ray machines are out of use in some THCs.

(4) The colony of *E. coli* groups were detected in more than 40% of samples taken from the tube wells on use. More than 95 % of samples from household stock water were contaminated with coliform organisms. Even after bleaching, several tube wells are still contaminated. Not only the flood but also the other factors must be considered as causes of contamination.

4. Recommendations

(1) The number of diarrheal patients increased during the flood. However, the death ratio has been kept less than 1 %. This results may partly due to advancement of therapy (i.e. ORS, IV fluids, etc.), to health education for the community people and to purification of the affected tube wells. These actions shall be kept hereinafter.

(2) Regarding health management, essential drug cost accounts 70 % of its budget in each THIC. The budget amount is to be increased for improving the quality and capacity of health services. That is, in addition to current system such as union-based and/or population-based distribution, another project-based distribution targeting sub sectors should be considered.

(3) Drug resistance bacteria shall be monitored.

(4) Special response targeting vulnerable people are necessary to be protected from infectious diseases. Short/long term countermeasure should be required.

活動日誌 (10月3日)

1. 業務記録表

別紙のとおり

2. 業務の進捗状況

(1) 本専門家チームの活動対処方針

大使館、JICA 事務所との打合せ、チーム内打合せをふまえ、対処方針は次のとおりとなった。

① さきに現地調達および UNIPAC 調達により供与し、現在は JICA 事務所に保管されている、緊急援助物資（輸液、経口補液、解熱剤など）および携行機材中の医薬品を Chandpur 郡の6つの Thana に配布する。とくに緊急援助物資については、供与量の約半分を Chandpur 郡での宿泊先であり活動拠点となる Matlab Center, ICDDR, B まで陸路輸送し、各 Thana において必要量を見定めた上で配布することとする。

② Chandpur 郡では、基本的に全6 Thana の Health Complex (Thana レベルでの中心的医療施設) を回り、感染症にかかるデータ収集、Health Worker を集めての水質改善にかかるデモンストレーションをできる範囲でおこなう。

③ 上記①、②をふまえ、報告書を作成し、保健家族福祉省、UNICEF、WHO へ結果報告する (UNICEF、WHO については、JICA 事務所を通して報告書を提出する)。

3. 10月4日(日)の予定

- (1) 09:00- 大蔵省 ERD 表敬
- (2) 10:00- 保健家族福祉大臣表敬
- (3) 14:00- ICDDR,B 表敬
- (4) 16:00- 保健家族福祉省担当者との打合せ

4. その他特記事項

- (1) JICA 事務所スタッフがビデオ撮りをおこなうこととなった。
 - (2) 発電機のカス、オイルは JICA 事務所に確認したところ、Chandpur で十分に購入できるとのことであったので、基本的には Chandpur 入り後、購入することとする。
 - (3) ダッカ空港での携行機材の引渡し式については、10月4日付 The Independent 紙の3面に "Japanese relief team arrives in city" として写真入りで掲載された。なお、TV 放送については今のところ確認できていない。
- 以上

10月3日(土)

時間	日程	人数	備考
09:55-10:45	チーム内打合せ(1)	チーム全員	▶タイ空港内ラウンジにて。
11:40-12:50	■移動(タイ空港→ダッカ空港)	大使館2名、JICA1名	▶TG 321、定刻どおりダッカ空港着。
13:45-13:50	携行機材引渡し式	JICA 事務所長	▶ダッカ空港内にて。バングラデシユ側は災害対策・援助省次官補が出席。国営TVによる取材あり。大使館経由でプレスリリース済。本日夕刻国営TV放映予定。
14:00-14:30	■移動(ダッカ空港→Pan Pacific Sonargaon ホテル)		▶マイクロバス1台。
15:10-15:25	■移動(Pan Pacific Sonargaon ホテル→大使館)	大使館4名、	▶ホテルチャエックイン。
15:30-17:00	大使館、JICA 事務所打合せ	JICA 事務所4名	▶大使館3階会議室にて。本チームの対処方針にかかる打合せ。
17:10-17:55	大使表敬		▶大使公邸にて。明日の保健家族福祉大臣との打合せにかかる事前打合せ。
18:10-18:30	■移動(大使館→Pan Pacific Sonargaon ホテル)		※激しい雷雨に見舞われる。
19:00-19:25	■移動(Pan Pacific Sonargaon ホテル→White Castle)	大使館3名、	▶今回チームをサポートするJOCV 看護隊員との事前打合せ。
19:30-21:40	◎JICA 事務所長主催夕食会	JICA 事務所7名、JOCV 看護隊員1名	
21:45-21:55	■移動(White Castle → Pan Pacific Sonargaon ホテル)		▶本チームの対処方針の確認。
22:00-23:10	チーム内打合せ(2)		▶団長、副団長を除く5名により、対処方針の再確認。
23:10-24:10	チーム内打合せ(3)		

活動日誌 (10月4日)

1. 業務記録表

別紙のとおり

2. 業務の進捗状況

(1) 緊急援助物資の輸送

JICA 事務所に保管されている緊急援助物資（輸液、経口補液、解熱剤など）の約半分を Chandpur 郡に持込むこととなったが、本専門家チームの Chandpur 入りに先立ち、本日17時頃、これら緊急援助物資および携行機材が Dhaka を出発した。Chandpur まで約7時間要し、10月5日早朝に Matlab Center, ICDDR, B に到着予定である。

(2) 本専門家チームの対処方針

昨日の大使館、JICA 事務所との打合せ、チーム内打合せに加え、本日、バングラデシュ側関係者と打合せを行なった結果、本専門家チームの対処方針は、次のとおり微調整された。

①緊急援助物資および携行機材中の医薬品を Chandpur 郡の7つのThanaに配布する。

② Chandpur 郡では、基本的に全7 Thana の Health Complex (Thana レベルでの中心的医療施設) を回り、感染症にかかるデータ収集、Health Worker を集めての水質改善にかかるデモンストレーションをできる範囲でおこなう。なお、本日、保健家族福祉省と打合せした結果、午前は10時から、午後は14時から活動を開始することとなった。また、Thana を巡回する順番は、Chandpur 郡の Civil Surgeon と協議の上、決定することとなった。

③ 上記①、②をふまえ、報告書を作成し、保健家族福祉省、UNICEF、WHO へ結果報告する (UNICEF、WHO については、JICA 事務所を通して報告書を提出する)。なお、本日より、団長および副団長が中心となり、報告書のアウトラインの検討を開始した。

3. 10月5日(月)の予定

(1) 07:00- ホテル出発

(2) 11:00- Chandpur 着 (ICDDR, B マトラブセンター)

(3) 13:00- 現地受入れ先との打合せ

4. その他特記事項

(1) ビデオ撮りについては、本日のダッカでの活動から大塚が撮影を開始した。専門家チームが Chandpur 入りする10月5日からは、JICA 事務所の備上したカメラマンと2名体制で2台のビデオカメラで撮影を継続する予定である。とくに、Chandpur において2グループに分かれて活動する際には、各グループでビデオカメラを回す予定)。なお、ビデオカメラは日本より持参した2台のビデオカメラを使用する予定で

ある。

- (2) さらし粉の調達については、JICA 事務所を通して 250 キログラム分を本日調達し、すでに Chandpur への輸送手続き済みである。
- (3) 昨日のダッカ空港での携行機材の到着セレモニーにつき、10 月 4 日、TV 放送されたことが確認された。
- (4) 10 月 5 日の Chandpur 入りには、JICA 事務所より石嶋 JOCV 調整員が同行（同調整員は、先週、JICA 事務所が行なった Chandpur 郡事前調査で Chandpur 入りした 1 人）。

以 上

10月4日(日)

時間	日程	人数	備考
08:35-08:50	■移動 (Pan Pacific Sonargaon ホテル→大蔵省)	チーム全員、大使館1名	
09:00-09:25	大蔵省 ERD Additional Secretary 表敬		
09:25-09:50	■移動 (大蔵省→総合庁舎)	大使、JICA 事務所長	▶ 機材引渡し。TV 取材あり。大使館よりプレスリリース済み。
10:00-10:30	保健家族福祉大臣表敬		
10:35-11:00	■移動 (総合庁舎→Pan Pacific Sonargaon ホテル)		▶ 大使館に保管中の携行機材の一部引出
11:10-11:30	■移動 (Pan Pacific Sonargaon ホテル→JICA 事務所)	衛藤、卜部、大塚	しのため JICA 事務所へ立寄り。他団員はホテルで昼食。
12:10-12:20	■移動 (JICA 事務所→大使館)		▶ 残留塩素測定パック、フィルムなど、一部携行機材引出し。
12:20-12:35	携行機材取出し		
12:35-12:45	■移動 (大使館→Ariran Restaurant)	JICA 事務所 4名、JOCV 看護隊員 3名	▶ Chandpur 郡における調査およびデモンストラーションにかかる打合せ。
12:45-13:30	JOCV 隊員との打合せ	チーム全員	▶ 下痢症についての情報聴取。
13:40-13:50	■移動 (Ariran Restaurant → ICDDR, B)		
14:05-15:20	ICDDR, B 表敬および視察		
15:20-15:40	■移動 (ICDDR, B →総合庁舎)		
16:00-17:00	保健家族計画福祉省 Additional Secretary 打合せ		▶ Chandpur 郡における活動についてのバングラデッシュ側との実務的打合せ。
17:15-17:30	■移動 (総合庁舎→Pan Pacific Sonargaon ホテル)		

活動日誌 (10月5日)

1. 業務記録表

別紙のとおり

2. 業務の進捗状況

(1) チームの対処方針

これまで幾度となく変更を余儀なくされた対処方針であるが、団長と副団長との事前の協議をふまえた10月5日のChandpur郡でのチーム内打合せ(10:45-11:30 および18:00-19:30)において、次のとおり方針変更することとなった。

①緊急援助物資の医薬品を、Chandpur郡の7つのThanaに各Thanaの必要量に応じて配布する。7 Thanaに配布後、余った医薬品はThana Health Complexの上部機関であるCivil Surgion Officeに供与する。一方、携行機材の医薬品については、基本的に各Thanaを巡回した際に簡単な治療行為をおこなう必要が生じた場合のみ使用することとし、残りは日本語表記であることもあり、副団長より使用方法につき十分説明した上で、引渡し書の署名交換をもって引渡すこととする。

② Chandpur郡でのフィールド活動は、当初考えていたように、2グループに分かれて各Thanaを調査するという方法をとらず、JOCV 2名を含む全9名が全7 Thanaをまわり、大きく「病院の調査」と「水の調査」グループにわかれて調査をおこなうこととする。具体的には、まず「病院の調査」は、(7) Health Complexでの医薬品の配布、(4) Health Complexの医療統計データ(毎日新しく訪れる患者数の推移など)の収集、(9)患者の便サンプルの収集、の3つを基本調査項目とし、(7)を大塚調整員、(4)を渡辺調整員、(9)を田辺医師が担当する。一方「水の調査」は、(7)ポンプの状況調査、(4)水質検査、(9)水質改善のためのデモンストレーション、の3項目をおこなうこととし、衛藤医師、ト辺医療調整員、小林医療調整員、JOCV 2名がHealth Workerたちと協力して調査する。また、Chandpur郡関係者との調整の結果、10月6日から10月10日までの各Thanaにおける活動日程(案)は次のとおりとなった。

10月06日(火)	10:00-	Matlab Thana
10月07日(水)	09:00- 14:00-	Sadar Thana (Civil Surgion OfficeのあるThana) Haziganj Thana
10月08日(木)	09:00- 14:00-	Kachua Thana Shahrasti Thana
10月09日(金)	10:00-	Faridganj Thana
10月10日(土)	10:00-	Haimchar Thana

③ 上記① および②の結果をふまえて報告書を作成し、その内容につき、保健家族福祉省、UNICEF、WHO などへ報告あるいは提出する。また帰国後は、厚生省にも報告書を提出する。

3. 10月6日(火)の予定

- (1) 10:00- Matlab Thana における調査活動
- (2) (午後) チーム内打合せ、書類整理 (予定)

以上

10月5日(月)

時間	日程	人数	備考
07:20-10:15	■移動 (Pan Pacific Sonargaon ホテル→ ICDDR, B マトラブセンター)	チーム全員、大使館2名、JICA事務所2名、JOCV 2名、JICA 備上カメラマン1名	→途中、陸路1時間30分、水路1時間15分。
10:15-10:40	ICDDR, B 宿舎チェックイン		→団長、医師2名以外は2人1部屋。
10:45-11:30	チーム内打合せ(1)		
11:40-12:25	ICDDR, B マトラブセンター 所長表敬		→団長より明日からのフィールド調査の進め方、各団員の役割分担につき説明。
12:25-12:50	昼食		
12:55-13:30	機材チェック	ト辺、小林、大塚、JICA 事務所1名、JOCV 2名	<ul style="list-style-type: none"> →そのまま同部屋で昼食。現地カレー。 →とくに明日より配布する薬品の確認をおこなった。他方、団長、副団長、衛藤、渡辺は現地受入先との打合せ (-17:00) →現地受入先との打合せをふまえた対処方針の確定。
18:00-18:40	チーム内打合せ(2)		
18:40-19:30	夕食		
	※その後、各グループに分かれて適宜打合せ		

活動日誌（10月6日）

1. 業務記録表

別紙のとおり

2. 業務の進捗状況

(1) Chandpur 郡 Matlab Thana における活動

10月6日、宿泊先である ICDDR, B の位置する Chandpur 郡 Matlab Thana において活動を実施した。各 Thana に供与する緊急援助物資については、すでに Dhaka における日本側関係機関との打合せの結果、1/2 を保健家族福祉省へ、残り 1/2 を Chandpur 郡へ供与することとし、Chandpur 郡供与用の 1/2 は、さらにその 1/2 を Civil Surgion Office へ、残り 1/2 を各 Thana の Health Complex へ分配することとなっていたが、それに基づいた量の医薬品を Matlab Thana Health Complex まで輸送・供与した。Matlab Thana への供与量は次表のとおりである。

輸液	81 箱 × 24 本/箱 = 1,944 本
経口補液 (ORS)	60 箱 × 200 袋/箱 = 12,000 袋
感染性結膜炎治療薬 (Tetracycline Eye Ointment)	3 箱 × 200 カプセル/箱 = 600 カプセル
肺炎治療抗生物質 (Amoxyciline)	2 箱 × 100 本/箱 = 200 本
感染性皮膚炎用 (Bazolic Skin Ointment)	2 箱 × 12 本/箱 = 24 本
Halot Tab	96 箱 × 100 錠/箱 = 9,600 錠

Matlab Thana Health Complex では、10月5日付で報告した対処方針に沿って Health Complex 調査チーム（藤田、田辺、渡辺、大塚）と水質改善チーム（衛藤、卜部、小林、JOCV 2名）に分かれて活動をおこなった。

Health Complex 調査チームは、院長からのヒアリングにより、ベッド数、患者数など Matlab Health Complex についての基礎情報を入手した。しかし、調査対象としていた下痢症患者は、Matlab Thana 内にある ICDDR, B に送られるため、1人も認められなかった。よって、便サンプルについても、下痢症患者のものはサンプリングできず、入院中の腸チフス患者より1サンプルを採取するにとどまった。下痢症患者が予想外に少なかったことから、Health Complex 調査チームは午前中で調査を終了し、午後は ICDDR, B に戻り、Matlab Thana Health Complex に供与する医薬品のうち、午前中移動時に運びきれなかった輸液 40 箱を運び出す作業をおこなった。

他方、水質改善チームは、午前中、Health Worker を集めてデモンストレーションをおこなった。デモンストレーションには Health Worker を含め 7、80 人の住民が集ま

った。また、午後はさらに2グループに分かれ、Health Workerとともに Matlab Thana の2つの村の井戸に関する調査、水質調査、水サンプルの収集をおこなった。

(2) Civil Surgion Office への医薬品供与

午後、Civil Surgion Office より2台の大型トラックが到着し、当初予定の Civil Surgion Office 供与分の医薬品の運出しをおこなった。各医薬品の供与量は次表のとおりである。なお、感染性結膜炎治療薬や肺炎治療抗生物質のように梱包が小さいものについては、チームが別途、輸送・供与することとなった。

輸液	240箱×24本/箱=5,760本
経口補液 (ORS)	500箱×200袋/箱=100,000袋
感染性皮膚炎用 (Bazoic Skin Ointment)	5箱×12本/箱=60本

3. 10月7日(水)の予定

- (1) 08:00-ICDDR, B 出発
- (2) 09:00-Sadar Thana 調査
- (3) 13:00-Sadar Thana 出発
- (4) 14:00-Haziganj Thana 調査

4. その他特記事項

(1) 10月7日の調査をもって、JOCV 2名が交代となる。10月7日、JICA 事務所より所員1名とともに新しい JOCV 2名が Chandpur 到着予定である。また、10月7日の夜に、前任2名から後任2名に引継ぎがおこなわれる予定である。

以上

(10月6日)

時間	日程	人数	備考
07:30-08:00	朝食	チーム7名、JOCV2名、カメラマン1名	<p>▶ 田辺医師の指示のもと、Matlab Thana に配布する医薬品の分配、車への積み込みをおこなった。</p> <p>▶ 他方、チーム2名とJOCV1名は、Matlab Thana Health Complex に配布する医薬品の運込みをおこなった。配布予定の全量は車のスペースの都合上、載せられなかった。</p> <p>▶ Health Complex 調査グループ、水質改善グループの2つに分かれて対処方針に沿って活動を実施した。</p> <p>▶ 午後のスケジュール確認をおこなった結果、Health Complex 調査グループは Civil Surgion に配布する医薬品のチェックのため ICDDR, B へ戻り、水質改善グループは井戸水採水、水中菌検査のため、Matlab Thana の村へいくこととなった。</p> <p>▶ 水質改善グループは、さらに2グループ(Aグループ、Bグループ)に分かれて2か所の村で井戸水採水、水中菌検査をおこなった。また Health Complex 調査グループの渡辺団員が水質改善グループに合流した。</p> <p>▶ Matlab Thana Health Complex に配布する医薬品の残量を取りに来た Health Complex の車へ積込んだ。</p>
08:00-09:30	医薬品整理、積み込み (Matlab Thana 用)	チーム7名、JOCV2名、ドライバーク4名	
09:50-10:10	■移動 (ICDDR, B → Matlab Health Complex)	チーム7名、JOCV2名、カメラマン1名	<p>▶ Civil Surgion Office が手配したトラック2台に医薬品を積込んだ。バンクラアシエ側が人を雇ったため、積み込み作業は順調であった。</p> <p>▶ 明日のスケジュールを確認して解散した。</p>
10:10-10:30	Matlab Health Complex 院長打合せ	チーム5名、JOCV1名、カメラマン1名	
10:30-11:30	活動実施	チーム5名、JOCV2名、カメラマン1名	
11:30-11:50	Matlab Health Complex 院長打合せ	チーム5名、JOCV2名、カメラマン1名	
11:55-	■移動 (Matlab Health Complex →)	藤田、田辺、大塚 (→ ICDDR, B) 衛藤、卜部、小林、渡辺、JOCV2名、カメラマン1名 (→ Matlab Thana フィールド)	
12:10-12:50	医薬品整理、積み込み (Matlab Thana 用)	藤田、田辺、大塚	
-13:15	■水質改善 B グループ移動 (→ ICDDR, B)	小林、JOCV1名、渡辺、カメラマン1名	
-15:35	■水質改善 A グループ移動 (→ ICDDR, B)	衛藤、卜部、JOCV1名	
17:15-20:00	医薬品整理、積み込み (Civil Surgion Office 用)	藤田、田辺、卜部、小林、渡辺、大塚	
20:00-20:40	夕食、チーム内打合せ	チーム5名、JOCV2名、カメラマン1名	

活動日誌 (10月7日)

1. 業務記録表

別紙のとおり

2. 業務の進捗状況

(1) Chandpur 郡 2 Thana (Sadar & Haziganzi) における活動

10月7日、午前に Sadar Thana、午後に Haziganzi Thana において活動をおこなった。Sadar Thana は、Chandpur 郡の Thana Health Complex の上部組織である Civil Surgeon Office の位置する Chandpur 郡最大の Thana であり、ICDDR, B から車で約1時間を要する。保健医療行政機能と病院機能を兼ね備えた Chandpur 郡の他の6つの Thana Health Complex と異なり、Sadar Thana では、保健医療行政機能は Sadar Thana Health Complex が、病院機能は Sadar Hospital が備えている。

Sadar Thana 供与分の緊急援助物資(医薬品)は、10月6日付業務報告でも報告したとおり、すでに Civil Surgeon Office に供与済みであったため、Haziganzi Thana 供与分の医薬品のみを積込んで ICDDR, B を出発した。Haziganzi Thana 供与分の医薬品は次表のとおりである。

輸液	40箱×24本/箱=960本
経口補液(ORS)	50箱×200袋/箱=10,000袋
感染性結膜炎治療薬(Tetracycline Eye Ointment)	3箱×200カプセル/箱=600カプセル
肺炎治療抗生物質(Amoxyciline)	2箱×100本/箱=200本
Halot Tab	96箱×100錠/箱=9,600錠

調査活動は、10月6日同様、Health Complex 調査チーム(藤田、田辺、渡辺、大塚)と水質改善チーム(衛藤、卜部、小林、JOCV 2名)に分かれておこなわれたが、上述したとおり Sadar Thana の医療機能は2分化しているため、Health Complex 調査チームは Sadar Hospital、水質改善チームは Sadar Health Complex をそれぞれの拠点として活動をおこなった。まず、Health Complex 調査チームは、Sadar Hospital の病院統計、下痢症患者数の推移などにつき院長からヒアリングをおこなった。また、下痢症患者15名の便サンプルを採取した。一方、水質改善チームは、フィールドで水質調査をおこなった後、Sadar Health Complex においてデモンストレーションをおこなった。

Sadar Health Complex より車で約1時間を要し Haziganj Thana Health Complex に到着した。Haziganj Thana Health Complex では、基本的に10月6日と同様の手順

で調査活動をおこなった。とくにデモンストレーションは大盛況であり、ヘルスワーカーを含む約40人が集まった。

(2) Civil Surgion Office への医薬品供与

ICDDR, B 出発時に、緊急援助物資のうち、輸液12箱(288本)および輸液用注射針37箱(17,760本)を載せたトラックが ICDDR, B に到着したため、チーム内で検討した結果、その全量を Civil Surgeon Office に供与することとし、トラックをチームの移動車とともに Sadar Thana 入りさせ、Civil Surgeon Office において引渡しをおこなった。

(3) 新規 JOCV 2名の着任

10月7日午前、新規の JOCV 2名が Chandpur 郡入りし、チームの Sadar Thana および Haziganj Thana における活動終了後、前任の JOCV 2名より業務の引継ぎを受けた。なお、前任の2名は10月8日、Dahkaへ戻る予定である。

3. 現状の問題点

(1) 携行機材の日本語表記医薬品の供与

これまで巡回した各 Thana Health Complex においては、田辺医師の指示のもと必要に応じて使用方法につき十分に説明したうえで、携行機材の日本語表記医薬品を供与してきたが、各 Thana Health Complex の代表と「機材贈呈目録」に署名交換をおこなわなかった。これについては、上部機関である Civil Surgeon と一括して署名交換をおこなうなどの検討策が必要である。

4. 10月8日(木)の予定

- (1) 07:30-ICDDR, B 出発
- (2) 10:00-Kachua Thana 調査
- (3) 13:00-Kachua Thana 出発
- (1) 14:00-Shahrasti Thana 調査

5. その他特記事項

(1) インマルサット FAX の不調

インマルサットの FAX の調子が悪く、FAX 送信できない状態である。できるだけ、何度も FAX 送信を試みるつもりであるが、Chandpur 郡にくる JICA 事務所のスタッフ、交代して Chandpur を去る JOCV などに JICA 事務所から事務局あてに FAX 送信してもらうなどの対応策も検討している。

以上

(10月7日)

時間	日程	人数	備考
07:15-07:30	◎朝食	チーム7名、JOCV 2名、カメラマン1名	
07:45-08:30	医薬品整理、積込み (Haziganj Thana 用)	チーム7名、JOCV 2名、カメラマン1名	
08:30-09:15	■移動 (ICDDR, B → Civil Surgeon Office)	チーム7名、JOCV 2名、カメラマン1名	<p>→ ICDDR, B 出発時に到着した緊急援助物資の追加分 (輸液および輸液針) を載せたトラックも共に Civil Surgeon Office に移動し、金屋同 Office に供与した。</p> <p>→ Health Complex 調査グループ、水質改善グループの2つに分かれて対処方針に沿って活動を実施し、活動終了後、Sabar Health Complex で集会した。</p>
09:20-11:50	活動実施 (Sadar Thana) ▲Health Complex 調査グループ: Sadar Thana 医療情報調査、便採取など ▲水質改善グループ: デモンストレーション、水採取、開取り調査など	チーム7名、JOCV 2名、カメラマン1名	
12:00-12:45	■移動 (Sadar Thana Health Complex → Haziganj Thana Health Complex)	チーム7名、JOCV 2名、カメラマン1名	
12:55-13:00	Haziganj Thana Officer 表敬	チーム7名、JOCV 2名、カメラマン1名	
13:10-13:30	医薬品運出し	チーム7名、JOCV 2名、カメラマン1名	
13:30-14:00	活動実施 (Haziganj Thana) ▲Health Complex 調査グループ: Haziganj Thana 医療情報調査、便採取など ▲水質改善グループ: デモンストレーションなど	チーム7名、JOCV 2名、カメラマン1名	<p>→ Health Complex 調査グループ、水質改善グループの2つに分かれて対処方針に沿って活動を実施した。</p>
14:00-	■移動 (Haziganj Thana Health Complex →)	藤田、田辺、渡辺 (→ ICDDR, B) 衛藤、卜部、小林、大塚、JOCV 2名、カメラマン1名 (→ Haziganj Thana フィールド)	<p>→ 水質改善グループは、さらに2グループに分かれて2か所の村で水採水、水中菌検査をおこなった。フィールド調査終了後、ICDDR, B へ移動した。</p>
19:00-20:00	◎夕食	チーム7名、JOCV 4名、カメラマン1名	<p>→ 次期 JOCV 2名を加え夕食後、10月8日の活動計画につき打合せをおこなった。</p>

活動口誌 (10月8日)

1. 業務記録表

別紙のとおり

2. 業務の進捗状況

(1) 対処方針の調整

10月8日夜に、藤田団長、田辺医師、衛藤医師で話し合いがもたれ、10月9日からの調査活動は、できるだけ数多くのデータを収集することに主眼をおいて活動することとなった。これにともない、これまで水質改善グループがおこなってきた村での聞き取り調査はおこなわず、フィールド調査時にはできるだけ多くの村、井戸で水採水、水中菌検査をおこなうこととなった。

(2) Chandpur 郡 2 Thana (Kachua & Shahrasti) における活動

10月8日は、午前に Kachua Thana、午後に Shahrasti Thana において活動をおこなったが、各 Thana 供与分の緊急援助物資 (医薬品) の運搬に関してチームで検討した結果、ICDDR, B からの距離を考えると、Kachua Thana Health Complex において医薬品を運出した後、Kachua Thana からいったん ICDDR, B に戻り、医薬品を積みなおして Shahrasti Thana に向かうことが時間的に不可能であることから、4 台の移動車のうち、2 台に Kachua Thana 分、2 台に Shahrasti Thana 分を載せ出発することとした。両 Thana への医薬品供与量は次表のとおりである。

Kachua Thana Health Copmplex

輸液	24 箱 × 24 本/箱 = 576 本
経口補液 (ORS)	29 箱 × 200 袋/箱 = 5,800 袋
感染性結膜炎治療薬 (Tetracycline Eye Ointment)	3 箱 × 200 カプセル/箱 = 600 カプセル
肺炎治療抗生物質 (Amoxyciline)	1 箱 × 100 本/箱 = 100 本
感染性皮膚炎用 (Bazolic Skin Ointment)	1 箱 × 12 本/箱 = 12 本
解熱剤 (Paracetamol)	2 箱 × 500 錠/箱 = 1,000 錠
さらし粉 (Bleaching Powder)	50 キログラム
Halot Tab	288 箱 × 100 錠/箱 = 28,800 錠

Shahrasti Thana Health Complex

輸液	23 箱 × 24 本/箱 = 552 本
経口補液 (ORS)	21 箱 × 200 袋/箱 = 4,200 袋
感染性結膜炎治療薬 (Tetracycline Eye Ointment)	3 箱 × 200 カプセル/箱 = 600 カプセル
肺炎治療抗生物質 (Amoxyciline)	1 箱 × 100 本/箱 = 100 本
感染性皮膚炎用 (Bazoic Skin Ointment)	1 箱 × 12 本/箱 = 12 本
解熱剤 (Paracetamol)	2 箱 × 500 錠/箱 = 1,000 錠
さらし粉 (Bleaching Powder)	50 キログラム
Halot Tab	288 箱 × 100 錠/箱 = 28,800 錠

Kachua Thana Health Complex、Shahrasti Thana Health Complex ともに、概ね順調に調査活動をおこなった。ただし、Shahrasti Thana でのデモンストレーションに関しては、Health Worker の意識が高く、すでにほとんどの井戸の浄水作業が終了していたこともあり、Health Worker のなかにはデモンストレーションの内容について物足りないと不満を漏らす者もいた。

3. 10月9日(金)の予定

- (1) 08:00- ICDDR, B 出発
- (2) 10:00- Faridganj Thana 調査

4. その他特記事項

- (1) 各 Thana Health Complex で供与した携行機材の日本語標記医薬品については、チーム内で検討した結果、Civil Surgeon Office の代表と 10月9日の9時に「機材贈呈目録」に署名交換することとなった。

以上

(10月8日)

時間	日程	人数	備考
06:30-07:00	◎朝食	チーム7名、JOCV2名、カメラマン1名	▶ 朝食後、スケジュールの確認をおこなった。
07:05-07:45	医薬品積込み	チーム7名、JOCV2名	▶ 移動車4台中、2台にKachua Thana 供与分、2台にShahrasti Thana 供与分を積込んだ。
07:55-09:55	■移動 (ICDDR, B → Kachua Thana Health Complex)	チーム7名、JOCV2名、カメラマン1名	▶ Health Complex 調査グループ、水質改善グループに分かれて活動を実施した。他方、Kachua Thana Health Complex のスタッフにより医薬品が運出されたが、供与リストを要求されたためその場で作成し、提出した。
10:00-12:15	活動実施 (Kachua Thana)	チーム7名、JOCV2名、カメラマン1名	▶ Kachua Thana Health Complex にてとつた。
12:25-12:45	◎昼食	チーム7名、JOCV2名、カメラマン1名	▶ 車で1時間の行程であった。
12:50-13:50	■移動 (Kachua Thana Health Complex → Shahrasti Health Complex)	チーム7名、JOCV2名、カメラマン1名	▶ 3名のShahrasti Thana Health Complex のスタッフにより運出された。また、Kachua Thana Health Complex 同様、供与リストを要求されたため、その場で作成し、提出した。
14:00-14:15	医薬品運出し	チーム7名、JOCV2名、カメラマン1名	▶ 2グループに分かれて活動を実施した。
14:20-15:00	活動実施 (Shahrasti Thana) ▲Health Complex 調査グループ: Shahrasti Thana 医療情報調査、便採取など ▲水質改善グループ: デモンストレーションなど	藤田、田辺、渡辺、大塚 (← ICDDR, B) 衛藤、卜部、小林、JOCV 2名、カメラマン1名	
15:00-	■移動 (Shahrasti Thana Health Complex →)	チーム7名、JOCV2名、カメラマン1名	▶ 水質改善グループは、さらに2グループに分かれて水採水、水中菌検査を行なった。調査終了後、ICDDR, Bへ移動した。
19:10-19:50	◎夕食	チーム7名、JOCV2名、カメラマン1名	▶ 夕食終了後、10月9日の予定につき打ち合わせをおこなった。

活動日誌 (10月9日)

1. 業務記録表

別紙のとおり

2. 業務の進捗状況

(1) Chandpur 郡 Faridganj Thana における活動

10月9日はチームの宿泊先である ICDDR, B Matlab Center から車で約2時間の Faridganj Thana Health Complex を拠点として活動をおこなった。Faridganj Thana Health Complex に供与した緊急援助物資は次表のとおりであり、同 Health Complex からの要望により供与医薬品リストを作成、提出した。

輸液	41箱 × 24本/箱 = 984本
経口補液 (ORS)	33箱 × 200袋/箱 = 6,600袋
感染性結膜炎治療薬 (Tetracycline Eye Ointment)	3箱 × 200カプセル/箱 = 600カプセル
肺炎治療抗生物質 (Amoxyciline)	1箱 × 100本/箱 = 100本
感染性皮膚炎用 (Bazoic Skin Ointment)	3箱 × 12本/箱 = 36本
解熱剤 (Paracetamol)	3箱 × 500錠/箱 = 1,500錠
さらし粉 (Bleaching Powder)	50キログラム
Halot Tab	384箱 × 100錠/箱 = 38,400錠

同 Health Complex では、対処方針に沿った調査活動を実施した。なお、これまで藤田団長が担当していた Health Complex 統計データの収集は渡辺業務調整員がおこなった。また10月10日現在、同 Health Complex に下痢症の入院患者がいなかったこともあり、便検体は1検体しか採取できなかった。

他方水質改善グループは、Health Complex 内でデモンストレーションをおこなった後、さらに2グループに分かれてフィールドに入り、数村において井戸水サンプルの収集、水中大腸菌検査をおこなった。

(2) 携行機材医薬品について

携行機材のうち日本製医薬品については、チーム内で協議した結果、用法につき田辺医師よりバングラデシュ側に十分説明したうえで、全量供与することとした。これまでも、数 Thana Health Complex に対し、田辺医師から用法を説明したうえで日本製医薬品を供与していたが、残量については、Civil Surgeon Office と協議のうえ、同 Office より各 Health Complex に分配してもらうこととした。10月9日、Faridganj Thana へ移動途中に渡辺、大塚業務調整員が Civil Surgeon Office を訪問し、Civil Surgeon との間で「機材贈呈目録」の署名交換をおこなった。

(3) ICDDR, Bにおける便検体採取

Faridganj Thana より ICDDR, Bに戻った後、田辺医師、渡辺、大塚業務調整員、新規 JOCV 2名の計5名で宿泊先である ICDDR, B Matlab Center の病棟において下痢症患者の便検体の採取をおこない、41検体を採取した。

3. 10月10日(土)の予定

- (1) 08:00- ICDDR, B 出発
- (2) 10:00- Halmchar Thana 調査

4. その他特記事項

- (1) 藤田団長は、10月9日午前 Chandpur 郡入りした日本大使館および JICA 事務所関係者とともに Chandpur 郡から Dahka へ移動した。藤田団長は、このあと10月10日に Dahka から Bangkok 入りし、10月11日早朝に帰国予定である。
- (2) 新規 JOCV 2名が10月9日午前 Chandpur 郡入りし、午後、チームの宿泊先である ICDDR, B Matlab Center の病棟の視察、前任の JOCV 2名からの業務引継ぎをおこなった。なお、前任の JOCV 2名は、10月10日午前 Chandpur 郡から Dahka 入りする予定である。

以上

(10月9日)

時間	日程	人数	備考
07:00-07:30 07:50-08:15	◎朝食 医薬品積み込み	チーム7名、JOCV2名、カメラマン1名 チーム4名、JOCV2名	➡ 食後に10月9日の活動につき打合せ。 ➡ この間、藤田団長、田辺医師、衛藤医師は打合せ。
08:40-10:40	■移動 (ICDDR, B → Faridganj Thana Health Complex)	チーム6名、JOCV2名、カメラマン1名	➡ 藤田団長は ICDDR, B に残り、Dahka へ移動。また、新規 JOCV 2 名が Chandpur 到着。
10:40-12:00	活動実施 (Faridganj Thana)	田辺、渡辺、大塚	➡ 活動実施中、Faridganj Thana Health Complex スタッフにより医薬品の運出し。 ➡ 便検体は1サンプルのみ採取。
12:05-	▲Health Complex 調査グループ：医療統計データ収集、Health Complex 内視察、便検体採取 ▲水質改善グループ：デモンストラーション ■移動 (Faaridganj Thana →)	衛藤、卜部、小林、JOCV2名 チーム6名、JOCV2名、カメラマン1名	➡ 2 グループに分かれて Faridganj Thana の 2、3 村で水採取、水中菌検査を実施。田辺、渡辺、大塚の3名は1村回ったところで ICDDR, B へ移動 (14:45 戻) 。
15:15-16:20 -16:30	ICDDR, B 便検体採取 ■移動 (→ ICDDR, B)	田辺、渡辺、大塚、新規 JOCV 2 名 チーム3名、JOCV2名、カメラマン1名	➡ 41 検体を採取。 ➡ 2 グループがそれぞれ ICDDR, B 着。その後、JOCV は新規 2 名に引継ぎを実施。
19:00-20:00 20:15-22:15	◎夕食 水質改善グループ内打合せ	チーム6名、JOCV4名、カメラマン1名 衛藤、卜部、小林、JOCV2名	➡ 食後に10月10日の活動計画につき打合せ。 ➡ 報告書にかかる打合せ。

活動日誌 (10月10日)

1. 業務記録表

別紙のとおり

2. 業務の進捗状況

(1) Chandpur 郡 Haimchar Thana における活動

10月10日、Haimchar Thana において調査活動を実施した。道路の整備状況が悪く、ICDDR, B Matlab Center から Haimchar Thana Health Complex まで、車で2時間強を要した。同 Health Complex に供与した医薬品は次表のとおりである。

輸液	20箱×24本/箱 = 480本
経口補液 (ORS)	50箱×200袋/箱 = 10,000袋
感染性結膜炎治療薬 (Tetracycline Eye Ointment)	15箱×200本/箱 = 3,000本
肺炎治療抗生物質 (Amoxyciline)	2箱×100本/箱 = 200本
感染性皮膚炎用 (Bazoic Skin Ointment)	5箱×12本/箱 = 60本
解熱剤 (Paracetamol)	3箱×500錠/箱 = 1,500錠
さらし粉 (Bleaching Powder)	100キログラム
Halotab	288箱×100錠/箱 = 28,800錠
Tetracycline Capsules	40箱×500カプセル/箱 = 20,000カプセル

同 Health Complex では、基本的に対処方針に沿った調査活動を実施した。ただし水質改善グループのフィールド調査に関しては、洪水の被害を受けた村が、院長によると Health Complex より車で2、3時間のところにあるということであったため、衛藤医師の判断により、下痢症患者の多い村での井戸水サンプルの収集、水中大腸菌検査を断念し、下痢症患者の比較的少ない Health Complex 周辺の数村での水質調査をおこなった。

(2) 医薬品 (緊急援助物資) 残量の引渡しについて

10月10日の Haimchar Thana Health Complex への供与をもって、Chandpur 郡全7 Thana の医療機関への医薬品供与を終えたこととなるが、チーム移動時の車4台の積載量に限りがあったこともあり、輸液、ORS などに若干の残量が生じたため、チーム内で検討した結果、残量については、① 輸液、ORS、Halotab は ICDDR, S Matlab Center に供与する、② それ以外の医薬品 (Tetracyclin など) は Civil Surgeon Office に供与する、こととした。そこで、田辺医師、渡辺業務調整員、大塚の3名は Haimchar Thana からの帰路、Civil Surgeon Office を訪問し、Civil Surgeon に対しその旨説明したうえで、同 Office の Store Keeper を連れて ICDDR, B Matlab Center に戻り、残量のうち同 Office 供与分の引渡しをおこなった。残量の同 Office 供与量は次表のとおり。

Tetracycline Capsules	160 箱 × 500 カプセル/箱 = 80,000 カプセル
Doxycycline Capsules	40 箱 × 500 カプセル/箱 = 20,000 カプセル

また、ICDDR, B Matlab Center への残量の引渡しについても、10月10日の午後、所長出張中のためマネージャーとの間でおこなった。同 Center への引渡し量は次表のとおりである。

輸液	271 箱 × 24 本/箱 = 6,504 本
経口補液 (ORS)	382 箱 × 200 袋/箱 = 76,400 袋
Halotab	33 箱 × 100 錠/箱 = 3,300 錠

3. 10月11日(日)の予定

- (1) 08:00- Dhaka へ向け ICDDR, B 出発 (スピードボート+マイクロバス)
- (2) 12:00- Sonargaon Hotel チェックイン
- (3) 19:00- 日本大使公邸夕食会

4. その他特記事項

(1) 10月11日の Chandpur 郡から Dhaka への移動に関しては、チームの携行機材 (ジェネレーター、ジュラルミンケースなど) は車4台で陸路輸送 (Dhaka まで約7、8時間)、チーム各個人の私物についてはチームとともに水路 (約1時間) および陸路 (約2時間) で輸送するものとする。携行機材は Dhaka 到着後、JICA 事務所に保管を予定している。

以上

(10月10日)

時間	日程	人数	備考
07:00-07:30	◎ 朝食	チーム 6 名、JOCV 4 名、カメラマン 1 名	▶ 朝食後打合せをおこない、活動計画を確認。
07:30-08:15	医薬品積込み	チーム 5 名、JOCV 2 名	▶ Haimchar Thana Health Complex 供与分。また、前任の JOCV 2 名は Dhaka に向けてロードポートにより ICDDR, B 発。
08:20-10:40	■ 移動 (ICDDR, B → Haimchar Thana Health Complex)	チーム 6 名、JOCV 4 名、カメラマン 1 名	
10:40-12:00	活動実施 (Haimchar Thana) ▲ Health Complex 調査グループ：医薬品運出し、Health Complex 統計データ収集、便検体採取	チーム 6 名、JOCV 4 名 田辺、渡辺、大塚	▶ 医薬品運出しは大塚、Health Complex 統計データは渡辺調整員、便検体採取は田辺医師が担当。
12:00-	▲ 水質調査グループ：アモンストレーション、井戸に関する聞き取り調査	御藤、卜部、小林、JOCV 2 名	▶ アモンストレーション終了後、下痢症患者の多い村が Health Complex から車で 2、3 時間かかるため、その村のフィールド調査を断念し、院長より聞き取り調査を実施。
12:00-	■ 移動 (Haimchar Thana Health Complex →)	田辺、渡辺、大塚 (→ Civil Surgeon Office → ICDDR, B)	▶ 医薬品の残量引渡しに関する打合せおよび日本製医薬品の用法説明のため Civil Surgeon Office へ移動。結果、10月10日中に残量を引渡すこととなり、同 Office の Store Keeper を連れて 15:30 ICDDR, B 戻り。ICDDR, B にて残量の引渡しをおこない、チームが備上した車 2 台で同 Office へ輸送。
19:00-19:30	◎ 夕食	御藤、卜部、小林、JOCV 2 名、カメラマン 1 名 (→ フィールド調査 → ICDDR, B)	▶ 近隣の村の井戸調査を実施。途中のパザールで遅い夕食をとった後、17:00 ICDDR, B 戻り。
20:00-	グループ別打合せ	チーム 6 名、JOCV 2 名、カメラマン 1 名 チーム 6 名、JOCV 2 名	▶ 夕食後 10 月 11 日のスケジュールにつき打合せ ▶ 渡辺調整員、大塚の 2 名は携行機材の整理。

活動日誌（10月11～13日）

1. 業務記録表

別紙のとおり

2. 業務の進捗状況

(1) Chandpur 郡から Dhaka への移動

10月11日午前、Chandpur 郡から Dhaka へ移動した。発電機など携行機材の残りは Chandpur 郡調査時に移動車として使用していた四輪駆動車4台で陸路 Dhaka へ輸送し、チーム6名は宿泊先である ICDDR, B Matlab Center からスピードボートでメグナグムティ橋側の発着所 Bausia までメグナ川を上り移動した後、Bausia からマイクロバスで Dhaka の宿泊先である Sonargaon Hotel まで移動した（11:40 到着）。また、陸路 Dhaka まで輸送した携行機材は 16:00 頃 JICA 事務所に到着した。

(2) 報告書の作成

10月12日から保健家族福祉省他に提出する英文の報告書作成にとりかかった。チーム内で協議した結果、1日間という短い期間で専門報告書を作らなければならないことを考慮し、ホテルではなく JICA 事務所で集中的に作成することとした。報告書作成にかかる作業分担は次表のとおりである。

田辺医師	全体の取りまとめ、提言
衛藤医師	水質調査結果、提言
卜部医療調整員	水質調査データ入力、表作成
小林医療調整員	Health Complex 患者統計データ入力、表・グラフ作成
渡辺業務調整員	報告書骨子の作成、Health Complex 患者統計データ分析、提言
大塚業務調整員	医薬品供与リスト作成、本文入力

田辺医師の方針で、最初に日本語で執筆し、チーム内で議論したうえで英語化するという手順をふんだ。作成作業は10月13日午前まで続いた。報告書はチーム帰国後、事務局に提出する予定である。

(3) 報告書の提出

報告書は、10月13日、JICA事務所、日本大使館、保健家族福祉省にチームより直接提出した。また、先日掲載された新聞記事を見た UNICEF、WHO より報告書が欲しいとの要望が日本大使館を通じあったため、日本大使館を通じて手交していただくこととなった。

また、保健家族福祉省への報告書提出（同省側は特別次官が対応）については、田辺医師より報告書にそって調査報告をおこなった後、質疑応答をおこなった。この際、同省側より、この調査結果をふまえ具体的に今後どのような協力を日本がするのかにつき質問があったが、渡辺業務調整員より、今回の調査結果を日本に持ち帰り、日本でおこなう予定の便検体および水サンプルの分析結果を検討したうえで具体的な協力につき検討したいと回答した。

3. 10月14日（水）の予定

- (1) 11:30- ホテル出発（→ダッカ空港）
- (2) 14:00-17:20 移動（Dhaka → Bangkok）※TG-322 アマリエアポートホテル泊

以上

(10月11日)

時間	日程	人数	備考
07:00-07:30	◎朝食	チーム6名、JOCV2名、カメラマン1名	▶ ICDDR, Bの食堂にて。朝食後、10月11日のスケジュール確認。
07:40-08:15	機材など積込み	チーム6名、JOCV2名	▶ 携行機材はジープ4台に、私物はスピードボートに積込み。
08:30-11:40	■ 移動 (ICDDR, B → Sonargaon Hotel)	チーム6名、JOCV2名、カメラマン1名	▶ ICDDR, BからスピードボートでBausia(メグナムテムイ橋側の発着所)まで約1時間、BausiaからマイクロバスでDhakaの宿泊先であるSonargaon Hotelまで約2時間。
11:40-11:50	ホテルチェックイン	チーム6名	
15:40-16:05	■ 移動 (Sonargaon Hotel → JICA事務所)	渡辺、大塚	▶ 所長への概要報告、ICDDR, Bから陸路輸送した携行機材の確認および整理。
16:10-18:45	JICA事務所打合せ	渡辺、大塚、JICA事務所所長他4名	▶ 渡辺、大塚はJICA事務所での打合せ終了後、直接日本大使公邸へ移動。
18:30-19:05	■ 移動 (Sonargaon Hotel → 日本大使公邸)	田辺、衛藤、卜部、小林	
19:05-21:00	◎ 日本大使主催夕食会	チーム6名、日本大使館6名、JICA事務所4名	
21:00-21:25	■ 移動 (日本大使公邸 → Sonargaon Hotel)	チーム6名	▶ 移動後、10月12日のスケジュールを確認のうえ解散。

(10月12日)

時間	日程	人数	備考
09:30-09:55	■ 移動 (Sonargaon Hotel → JICA 事務所)	チーム 6 名	→ 事務所のスペースを借りて夕方まで報告書作成。 昼食は事務所内とする。
10:00-19:15	■ 報告書作成	チーム 6 名	
19:15-19:25	■ 移動	チーム 6 名	
19:30-21:20	◎ 夕食	チーム 6 名、JICA 事務所 6 名	
21:25-21:45	■ 移動	チーム 6 名	

(10月13日)

時間	日程	人数	備考
06:50-09:15	報告書作成	チーム6名	→ 報告書(案)の手直し。
09:30-09:50	■ 移動 (Sonargaon Hotel → JICA 事務所)	チーム6名	→ 再度チームで検討して加筆・修正後、事務所、本部事務局のコメント取付け後、再修正。
09:55-14:20	報告書作成	チーム6名	昼食は事務所内で。
14:25-14:35	■ 移動 (JICA 事務所 → 日本大使館)	チーム6名	→ 田辺医師より調査報告。
14:40-15:15	日本大使館報告	チーム6名、日本大使館公使他5名、JICA 事務所2名	
15:20-15:45	■ 移動 (日本大使館 → 総合庁舎)	チーム6名、日本大使館1名、JICA 事務所1名	
16:05-16:50	保健家族福祉省報告	チーム6名、日本大使館1名、JICA 事務所1名、保健家族福祉省特別次官他5名	→ 田辺医師より調査報告。また今後の日本の具体的な協力につき質疑応答。
17:00-17:15	■ 移動 (総合庁舎 → Sonargaon Hotel)	チーム6名	
18:30-18:50	■ 移動	チーム6名	
18:55-21:15	◎ 日本大使館公使主催夕食会	チーム6名、日本大使館5名、JICA 事務所3名	
21:20-21:45	■ 移動	チーム6名	→ 10月14日のスケジュールの確認後、解散。

Bangladesh - Floods OCHA Situation Report No. 9

18 SEPTEMBER 1998

General Situation

1. The United Nations Resident Coordinator in Bangladesh reports that, as of 16 September 1998, no significant rainfall was registered at any point in Bangladesh in the 24 hrs ending at 9.00 a.m.
2. All the rivers in the Brahmaputra and Ganges basins had registered "remarkable" fall in last 24hrs. According to the Flood Forecasting and Warning Centre of the Government, out of the 46 monitoring stations where the water levels were measured, at 15 points the levels were still above their respective danger levels with falls observed at 41 points and rise registered at one point. The flood forecast for the next two days indicated that the flood situation was likely to improve further.
3. The following update on flood damage was provided by the Ministry of Disaster Management and Relief as of 15 September 1998:

Districts Affected: 52
 Thanas affected: 366
 Persons affected: 30.6 million
 Total dead: 783
 Crops damaged: 1,497,500 (acres)
 Houses damaged: 894,015
 Roads damaged: 15,900 (km)
 Embankment damaged: 4,451 (km)
 Shelters: 2,661
 Sheltered people: 1 million

4. An indirect road connection is established with Chittagong through ferry services between Kanchpur and Daudkandi. Together with the improvement in Dhaka's road link with the northern parts of the country via Mymensingh, the supply of vegetables and other items to Dhaka has increased remarkably.
5. The road links between Dhaka-Chittagong, Dhaka-Sylhet, Dhaka-Mawa and between Dhaka-Aricha remains suspended as water is overflowing various points of these highways.
6. Water, sewerage and line damages, in the City of Dhaka: According to Water and Sanitation Authority (WASA) officials, the recent floods have heavily damaged Dhaka City's drinking water system and the sewerage and storm water drainage systems. 1,500 km of water supply lines, 550 km of sewer lines and 185 km of drainage systems have to be rehabilitated. At the moment, WASA can only supply to their customers up to 950 million litres of drinking water per day. This is to compare with the total requirement of 1,400 million liters. 1.5 million people are most affected in the eastern part of Dhaka as they struggle every day for some liters of potable water. Waterborne diseases are spreading fast through some areas of the 9 million-inhabitant city of Dhaka.

National and International Response

7. The United Nations Resident Coordinator remains in close contact with the Government authorities to assist in coordinating assistance from the wider donor community in Dhaka. The UN Resident

Coordinator is also coordinating the UN system response to this emergency through the United Nations Disaster Management Team (UN-DMT), supported by the UNDAC team. On 14 September 1998, OCHA organized an information meeting for the humanitarian community in Geneva at which the UNDAC Team Leader presented the findings of the UNDAC mission and the requirements for international assistance detailed in the UN Flash Appeal. The UNDAC Team Leader will continue his assignment in Dhaka until the end of September, by which time he will be replaced by an OCHA consultant to continue supporting the UN Resident Coordinator and to assist with the preparation of an appeal for rehabilitation.

8. The UN Resident Coordinator, together with a group of donor Ambassadors/High Commissioners, participated in a helicopter overview of flood affected areas on Tuesday, 15 September. The flight was organized by the Emergency Response Division, Ministry of Disaster Management and Relief. The visit included an overview of the Padma river and briefing on the current situation in Sirajgonj District. The WFP Representative accompanied a second group to Rajshahi District.
9. As part of the overall UN system effort, WFP launched an emergency operation for food aid worth USD 84 million. WFP plans to provide 175 metric tons of dry biscuits for immediate distribution, 352,400 tons of wheat as basic rations and 3,500 tons of blended food to 19 million people most in need. It will be the largest emergency operation in the history of WFP in terms of people assisted. The Government has appointed the Armed Forces as responsible for handling relief goods in the Port of Chittagong. The first ship managed by WFP arrived in Chittagong on 16 September with 52,000 MT of Wheat. Experts from WFP have evaluated the throughput capacity at Chittagong port and estimate that at least 150,000 MT can be handled per month. The Government believes that the figure should be higher, quoting a 300,000 MT/month throughput after the 1988 floods. WFP further confirms that the silo storage capacity is sufficient and of the highest possible quality. WFP logistical experts have been sent to Chittagong to prepare for the reception and onward movement of food supplies.
10. The health sub-group of the UN-DMT in Bangladesh, including WHO and UNICEF, has, in consultation with the Ministry of Health and Family Welfare prepared a list of estimated needs for drugs and other emergency health-related supplies for the next 3 - 4 months. The total value of the estimated needs is around USD 8.8 million, as indicated in the UN Flash Appeal. In addition, WHO Bangladesh is working on a list of urgent supplies needed for the epidemic surveillance sector.
11. WHO informs that currently the main health problem is diarrhoeal diseases with around 185,306 cases reported since 15 July 1998, of which 151 have died. Regular summary updates can be found on the WHO Bangladesh website: <http://www.whoban.org>. The WHO Office in Bangladesh has reported that all stocks in the health sectors are rapidly diminishing. WHO is focusing its assistance on prevention of communicable diseases with potential public health threat, along with some curative supplies. WHO will also focus on strengthening the surveillance capacity by supporting laboratories.
12. UNICEF's regular country programme is ongoing in the flood-affected areas UNICEF is making arrangements to truck clean water to camps providing shelter to the displaced population. As the conditions in shelters are very poor and continue to deteriorate, priority is given to supplementary feeding and water sanitation activities. UNICEF projects to buy emergency drugs worth about US \$1 million for this emergency programme.
13. FAO has approved a contribution of USD 250,000 from its Technical Cooperation Programme for emergency supply of vegetable seeds to flood-affected farmers in order to support them for the

imminent planting season. This project is targeted for 100,000 beneficiaries and is already operational. Upon request from the Government of Bangladesh, a project proposal for emergency supply of veterinary medicines and vaccines to flood-affected livestock farmers is currently being appraised. FAO has also fielded a national consultant to assess the damage and the most urgent needs in the agriculture sector for immediate rehabilitation.

14. On 10 September 1998, the International Federation of Red Cross and Red Crescent Societies issued a revised appeal seeking SF 10,075,000 (about USD 6.8 million) to assist 1.5 - 2 million beneficiaries with food, seeds, medical services and clothing for 4 months.
15. On 13 September a three-person assessment team from the German Technical Support Service (Technisches Hilfswerk - THW) arrived to assess the water situation in Dhaka City, in close cooperation with the local authorities. The UNDAC team, on behalf of UNDP, is facilitating the work of the THW assessment team. It is planned to deploy another 13 water purification-experts from Germany within the next few days together with water purification units and pumping equipment to assist the local efforts to meet the most urgent demands for potable water.
16. Over and above the additional emergency aid worth PDS 21 million being provided by the UK Department for International Development (DFID) (as detailed in the attached contributions table), the UK is taking actions to reallocate funds and redirect activities from within existing projects, including an Agriculture Support Services Project, a Rural Bridging Materials Project and Bridge Replacement Project.- Planning for Rehabilitation
17. Discussions on the post-flood rehabilitation phase have started between the Government, the World Bank, the Asian Development Bank and UNDP. A meeting was held this morning at the Ministry of Finance, with participation of the secretaries of the Ministries of Water Resources, Agriculture, Communication, Education, and others, plus the UNDP, ADB, World Bank and IMF to discuss the post-flood rehabilitation programmes. It was concluded that detailed needs assessments should be made in the different sectors concerned in cooperation with the responsible ministries, the key agencies and donor country representatives. It was generally believed that the bulk of rehabilitation requirements would have to be funded by diversion of ongoing development projects, but that an international appeal for additional funding would be necessary. The Ministry of Finance, together with concerned Government agencies, will seek to streamline the approval procedures for redirection of ongoing projects.
18. It was noted that some of the rehabilitation requirements were of an urgent nature while others were of longer term. Amongst the immediate requirements are rehabilitation of schools and medical facilities, rehabilitation of urban water and sewage systems (particularly in Dhaka), rehabilitation of key infrastructure facilities (e.g. highway Dhaka - Chittagong) and initial rehabilitation of agriculture through the planting of seeds wherever feasible.

Contributions reported to OCHA

19. To date, cash and in-kind contributions valued at over USD 128 million (as detailed in the attachment) have been reported to OCHA by the international community in response to the flood situation and to the Appeals issued by the Government and the United Nations.
20. OCHA is prepared to serve as channel for cash contributions for immediate relief assistance. Funds channelled through OCHA will be spent for a concerted relief programme in coordination with the relevant organizations of the UN system and OCHA will provide written confirmation of their use. Funds should be transferred to OCHA account No. CO-590.160.1, Swift code:

SBCOCHGG12A at the UBS AG, P.O. Box 2770, CH-1211 Geneva 2, with reference: OCHA - Bangladesh - Floods.

21. For coordination purposes, donors are kindly requested to inform OCHA Geneva as indicated below, of relief missions/pledges/contributions and their corresponding values by item. This Situation Report and further information on ongoing emergencies are also available on the OCHA Internet Website at: <http://www.reliefweb.int>

Telephone number: +41-22-917-1234

Desk Officers: Ms. S. Metzner-Strack / Mr. R. Mueller / Ms. M. Kondo
OCHA Disaster Response Branch, direct Tel. +41-22-917-2144/3131/1997

Press to contact: Ms. E. Ponomareva, Tel. +41-22-917-2336

Fax: +41-22-917 00 23,

e-mail: info@dha.unicef.org

News

Japanese disaster relief team arrives

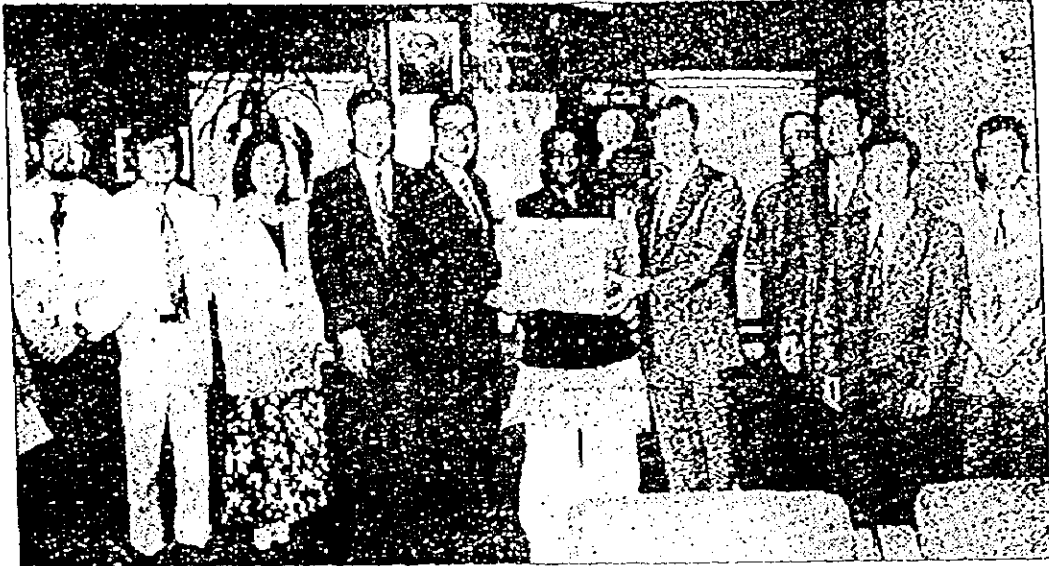
A seven-member Japanese disaster relief team of experts arrived in the city yesterday to extend medical assistance for prevention of epidemics in flood-affected areas, reports UNB.

The team, headed by Hidoo Fujita, Assistant Director of Southwest Asia Division, Asian Affairs Bureau, Ministry of Foreign Affairs, Japan, include two medical doctors, two medical coordinators and two staff from Japan International Cooperation Agency (JICA).

Japan has provided medical relief worth about 2,20,000 US dollars and 400,000 US dollars for purchase of medicines and medical materials.



A 7-member Japanese disaster relief team arrived in the city yesterday with medical goods. Officials of the Directorate of Relief and Rehabilitation received the team at the airport.



Japanese Ambassador to Bangladesh Yoshikazu Kaneko handing over medical goods worth about 220,000 US dollars to Health and Family Welfare Minister Salahuddin Yusuf yesterday. — PID photo

Japan donates medical goods worth \$ 220,000

A seven-member Japanese disaster relief team of experts led by Japanese Ambassador Yoshikazu Kaneko called on Health and Family Welfare Minister Salahuddin Yusuf at his office yesterday, reports BSS.

The Japanese Ambassador formally handed over to the health minister emergency medical goods, worth 220,000 US dollars, for the flood-affected people.

The medical relief materials include IV fluid — 55,000 pieces; ORS — 450,000 cases; tetracycline — 200,000 pieces; doxycycline — 30,000 pieces; tetracycline eye ointment — 6,000 pieces; paracetamol — 10,000 cases; amoxicillin — 10,000 cases; bazole skin ointment — 400,000 pieces; bleaching powder — 1,000 kg and water purification tablet — 20,000 cases; a Japanese Embassy press release said.

JICA

